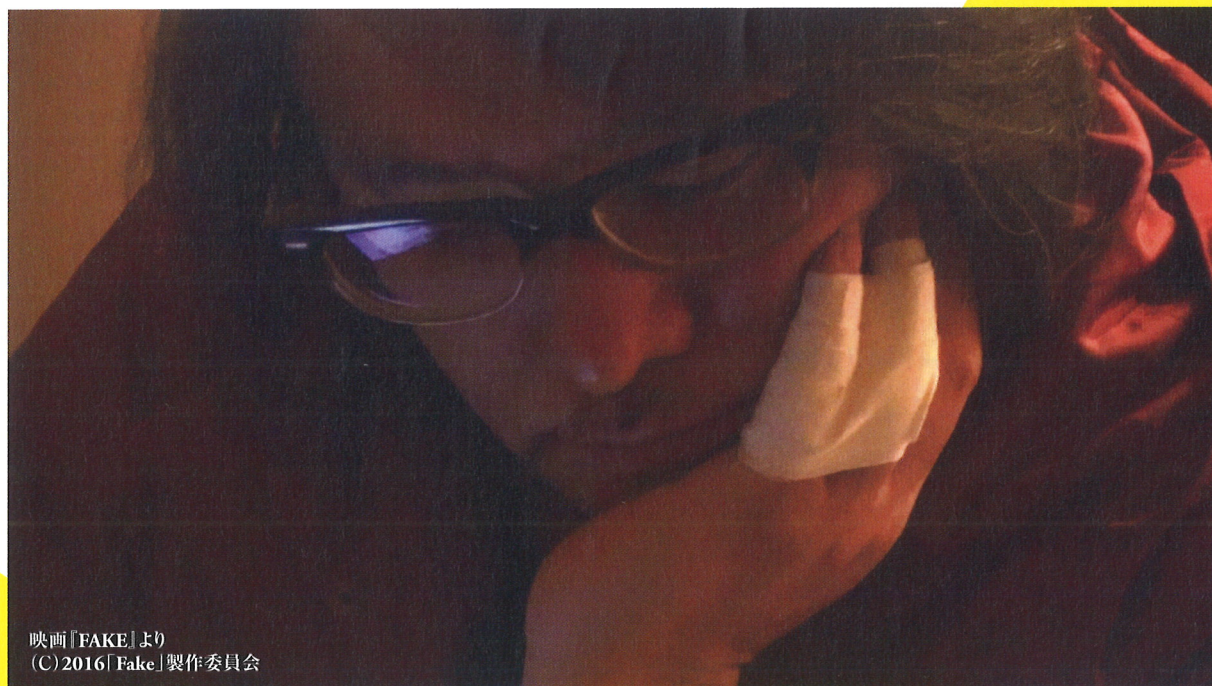


第24回 harappa映画館

ドキュメンタリー

最前線

2017



映画「FAKE」より
(C)2016「Fake」製作委員会

辰吉丈一郎／袴田巖／佐村河内守

— 私たちは、人間と出会う

3.4 sat

弘前中三8F・スペースアストロ

- ◆ チケット — 作品ごとに1回券1枚が必要です
3回券 2500円 (前売りのみ)
1回券 前売1000円 (当日1200円)
学生・harappa会員 500円

◆ スケジュール

10:30 『ジョーのあした -辰吉丈一郎との20年-』

13:00 『袴田巖 夢の間の世の中』

※上映後、金聖雄監督によるシネマトーク

16:15 『FAKE』

◆ チケット取扱

弘前中三

紀伊國屋書店 弘前店

まちなか情報センター

弘前大学生協

コトリcafe(百石町展示館内)



主催／NPO法人 harappa 共催／アムネスティ・インターナショナル 弘前グループ
問合せ／harappa 0172-31-0195 post@harappa-h.org
「平成28年度 弘前市市民参加型まちづくり1%システム」対象事業



harappa映画館/ドキュメンタリー最前線2017

— 私たちは、人間と出会う

すぐれたドキュメンタリー作品に出会ったとき、その主人公の人間性や人生そのものを垣間見たことに興奮している自分に気づく。撮影され、作品として私たちが眼にしている映像の背後に、どんなに激しい、表現することも難しい、並のフィクションなどかすんでしまうような人生のドラマがあったことだろう…

プロ8戦目で世界王者となった後、何度も引退の危機を乗り越え、今もお現役続行にこだわり続ける元WBC世界バンタム級チャンピオン、辰吉丈一郎。

冤罪を訴え再審を目指す「袴田事件」の被告。48年間の獄中生活を経て東京拘置所から釈放されたが、検察の異議申立てにより、現在なお死刑囚の袴田巖。

聴覚障害を持ちながら数々の楽曲を作りマスコミの賞賛を浴びた後、「ゴーストライター騒動」でメディアのバッシングを受けた佐村河内守。

「ドキュメンタリー最前線 2017」で私たちは、この3人の人間と出会う。作り方が異なる3本の作品に共通するテーマはない。3種類の出会いがあるだけだ。

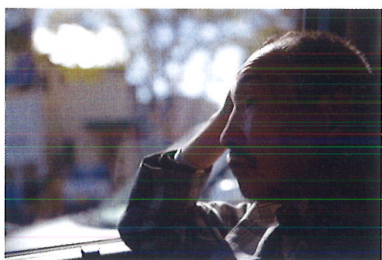


©日本映画投資合同会社

ジョーのあした-辰吉丈一郎との20年-

監督：阪本順治
出演：辰吉丈一郎 / ナレーション：豊川悦司
2016年 / 日本 / 82分 / カラー

1995年、アメリカ・ラスベガス。王座獲得から4年…王座陥落、返り咲き、網膜剥離、引退勧告と続く苦難から海外にリングを求めた辰吉は、このとき25歳。以後2014年、44歳までの20年間、彼のプロボクサーとしての心境をインタビューを中心に追いつけた記録である。カメラを廻し続けたのは、かつて『どついたるねん』（1989 / 主演：赤井英和）で元プロボクサーを役者に起用して映画デビューした阪本順治。



© Kimoon Film 映画「袴田巖」プロジェクト

袴田巖 夢の間の世の中 ☆ゲスト:金聖雄監督 上映後、シネマトーク

監督：金聖雄
出演：袴田巖 / 音楽：谷川賢作 / プロデューサー：陣内直行 / カメラマン：池田俊己
2016年 / 日本 / 119分 / カラー

1966年に静岡県で発生した強盗殺人放火事件の犯人とされた死刑囚・袴田巖は、えん罪を訴え続けてきた。再審決定で、48年ぶりに解放された元プロボクサーの袴田は、家の中を歩く、歩く、歩く。リングより狭い独房を無言で歩き回った孤独な時間が続いているのだ。袴田を支援してきた日本プロボクシング協会は、彼が試合観戦する日のために「袴田シート」を設けた。プロボクシングの聖地・後楽園ホールの観客の前に、袴田が姿を現す日は来るのだろうか。



©2016「Fake」製作委員会

FAKE

監督・撮影：森達也
出演：佐村河内守 / プロデューサー：橋本佳子 / 撮影：山崎裕 / 編集：鈴尾啓太
2016年 / 日本 / 109分

聴覚障害を持ちながら数々の楽曲を作り上げ「現代のベートーヴェン」と讃えられたが、「ゴーストライター騒動」によってバッシングの嵐にさらされた佐村河内守氏。彼の自宅でカメラを廻し、その素顔とメディア関係者とのやりとりを記録するこの映画は、「真実」と「虚偽」、「黒」と「白」という安易な二元論に切り込む…監督は、『A』（1998）・『A2』（2001）でオウム真理教の側から社会を映し出した森達也。15年ぶりの新作長編。

ゲスト / 金聖雄 キムソンウン



1963年大阪・鶴橋に生まれる。大学卒業後（株）リクルート勤務。その後自分で商売をはじめが失敗。東京にて料理写真家の助手を経験後、助監督になる。1993年からフリーの演出家としてスタート PR映像やドキュメンタリー、テレビ番組など幅広く手がける。2004年、在日1世のおばあちゃんの日常を4年間追いかけたドキュメンタリー映画「花はんめ」を監督。2013年「SAYAMA みえない手錠をはずすまで」完成、毎日映画ドキュメンタリー映画賞受賞。

©チケット予約

お名前、電話番号、メールアドレス、希望券種・枚数を記載の上、E-mail(post@harappa-h.org)または電話(0172-31-0195)にてご予約ください。